

社長ブログNo.1
丹羽広社長の

Knowledge Cellar

経済学博士
チャールズ・ユウジ・ホリオカ氏

第5回
ゲスト

お金と仕事と
ワインの話

H O S T
フエニックス証券
代表取締役社長
丹羽広氏

PROFILE

(社)日本ソムリエ協会が認定するワインエキスパートの資格を取得。2008年末、チャリティ・オペラ・コンサートを主催。社長本人が企画、運営、司会進行役を務めた。



G U E S T
「ユウジ・ホリオカ氏」
大阪大学社会経済研究所教授

PROFILE

大阪大学社会経済研究所教授。ハーバード大学経済学博士。京都大学助教授などを経て、現職。国際金融から貯蓄行動まで研究対象は幅広い。2001年には、国際的に認知される業績をあげた若手経済学者に贈られる「中原賞」を受賞。

ホームバイアスからの開放が景気を回復させる手段

高齢化が進む日本
そこには独特の「世代契約」がある

丹羽社長(以下、丹羽) 5回目を迎える今回は、初のアカデミズムの代表であるホリオカ先生のお話が聞けることあって、非常に楽しみにしておりました。よろしくお願ひします。ホリオカ氏(以下、ホリオカ) よろしくお願ひします。久しぶりに丹羽君にお目にかかれてうれしく思っています。

丹羽 ホリオカ先生は、家計動向の研究を長年にわたり続けていらつしやいますね。

ホリオカ はい。日本人の貯蓄行動、消費行動、遺産行動、親子関係を研究しています。

丹羽 年金不信の我が国にとって、極めて重要な研究テーマです。ホリオカ 私がより深く研究しているのは親子関係、つまり世代間についてなのです。

丹羽 これだけ景気が悪い日本のなかで、もっとも貯蓄が集まっているのは70歳以上の方のところなのではと思つているんです。崖つぶちの日本経済にとつて、この貯蓄偏在こそが台風目のなではないでしょうか。

ホリオカ おっしゃるとおりです。経済学者は皆、高齢者の行動に着目しているんですよ。経済学でよく使う「ライフサイクル仮説」によれば、高齢者はあまり収入がないので、自らの貯蓄を取り崩すことによって生活費をまかなうはずなんです。ですから、高齢者が増えると当然貯蓄率が下がるとは思われますね。実際、日本の家計貯蓄率は最近急激に下がってきていて、今は3パーセント前後に過ぎないのですね。これは高齢化

の影響だと考えられます。ところが、日本の高齢者の貯蓄行動についてみてみますと、彼らは貯蓄を取り崩してはいけません。緩やかにしか取り崩してはいないのですね。

丹羽 それはどうしてでしょう。ホリオカ 確かに、そうかもしれません。ホリオカ 遺産というところ、残された子供たちのために、と思ひますよ。しかしそれは必ずしも子供に対する愛情からというわけではなく、実は老後の面倒を子供に見てもらおうための「担保」である、という側面が非常に大きいことがわかりました。

丹羽 遺産が「担保」ですか? 高齢者は貯蓄を取り崩しながら生活を「担保」として生きていくというライフ・サイクル仮説に反した現象が日本で見られている理由ですか。

ホリオカ と、思うのですが、結局は日本の高齢化社会でもライフ・サイクル仮説は成り立っているんです。どういう仕組みかといふと、海外の高齢者はわりと完結していて、子供に面倒を見てもらわず、自分の貯蓄を取り崩して生活を成り立たせています。一方日本では、高齢者になつたらまず子供に生活をまかすてもらおう。そしてその借金を遺産として返済する、という子供を介した自己完結を実は行っているんです。

丹羽 とどのつまりは同じことなのでしょうが……。

ホリオカ ただし、日本のこの仕組みにはメリットがありまして、自分の貯蓄を取り崩しながら生活をしていると、死ぬ前に貯蓄が尽きるかもしれ

ない。しかし子供と契約を結べば、その心配はなくなりますからね。丹羽 なるほど、今の日本で、どこまで長生きをしても安心できるのは世代間の契約というのか、暗黙の了解があるから、ということですか。

自由でありすぎてもいけないし、規制がかかりすぎてもいけない

丹羽 先日、2008年度のノーベル経済学賞の発表がありました。ポール・クルーグマン先生が受賞されました。私としては反ブッシュ政権の旗手であつたことから、なにか意味深長なものを感じるクルーグマン先生の受賞ですが、ホリオカ先生はこの結果にどういった感想をお持ちですか?

ホリオカ 当然な選挙だと思ひます。確かに55歳とまだ若いですが、経済地理学と「新しい貿易論」の新しい分野を二つ開拓されたことについては十分評価されるべきだと思います。

丹羽 ホリオカ先生も国際経済の分野で頻りに引用されるユニークな研究成果を残されています。クルーグマン先生との共通点がありますか? ホリオカ そうですね、パラドックスの存在を指摘する、という点で共通しているのではないかと思います。

丹羽 これまで考えられてきたことと逆の事実があることを証明する、ということですか?

ホリオカ 大げさに言えばそうですね。例えば、私がハーバード大学の大学院生の頃にフェルドスタイン先生

と書かせていただいた論文では、国内貯蓄の多くは国内投資に費やされており、国際的な資本移動は決して大きくない、というパラドックスを示しました。

丹羽 かの有名な「フェルドスタイン」ホリオカパラドックスです。ホリオカ はい。一方クルーグマン先生は、例えばこれまでは労働力が大きい国と、資本を多く持っている国というように異なった条件を持った国同士で行われるからこそメリットがあると考えられていた国際貿易について、実は、似たような条件や同じような技術水準を持った国同士でも盛んに貿易が行われているというパラドックスを明らかにしました。

丹羽 なるほど。両者とも、これまで気づかれていなかった事実を明らかにしていますね。

ホリオカ そうですね、しかも、逆説的な事実を明らかにしたという点でも、クルーグマン先生と共通していると言えますね。

丹羽 「フェルドスタイン」ホリオカ「パラドックス」が指摘しているのは、貿易がこれだけ行われているのに、そのファイナンスというのは当然資本取引でなくてはならないのに、実はかなりの「ホームバイアス」がある、という、矛盾した国内貯蓄率と国内

投資の事実、今の金融危機にも関係していると思つています。というのも、我々のいる業界、金融という仕事自体が非常に国ごとに壁があるように思っているからなのですが。

ホリオカ ホームバイアスには様々な原因がありますが、各国の規制や金融行政の違いが一つの大きな原因だと思ひます。

丹羽 アメリカにしてもヨーロッパにしても、先生が論文を発表されてからはずっと規制緩和で国境の壁を押し下げてきました。ところが食糧危機では穀物輸出を制限するわ、金融危機では自国銀行の預金全額保護を即断するわ、開国と自由放任を先導してきた主要先進国が一転して保護主義合戦に寝返つたことが、リーマンショック後いっそう顕著になっています。ホリオカ その通りです。自由化が進みすぎてもよくないですが、閉鎖的すぎてもよくないですね。

丹羽 私の業界であるFX業界は、あらゆる金融商品の中で極端に自由すぎていて、競争が非常に激しい。スプレッドとか、手数料などでの競



「世帯内分配と世代間移転の経済分析」(ミネルヴァ書房刊)
チャールズ・ユウジ・ホリオカ/財団法人家計経済研究所編

ゲストに贈る「珠玉の1本」



茜屋珈琲 ぐれいぶジュース

珈琲専門店「茜屋珈琲店」で売られ、またたく間に評判となった葡萄天然果汁100%のグレープジュース。その濃厚さ、奥深さは「アルコールが入っていない赤ワイン」。

大のワイン好きの知り合いが体調を崩してお酒が飲めなくなったときに、「ワインが飲めないのなら極上の葡萄ジュースを」と言ってソムリエとともに約100種類の中から見つけ出した葡萄ジュース。お酒が苦手なホリオカ先生にも気に入っていただけはらず!

対談を終えて

前半の高齢者家計の問題では、公的年金制度が異なる米国や中国と、問題含みの国民皆年金の我が国との比較を徹底的に追及してみたくまりました。後半の国際貿易・金融でも、ドル安以上に深刻な新興国通貨の暴落について、深い洞察を提供していただきました。多忙なホリオカ教授ゆえ、1時間程度の対談となりましたが、いずれのテーマについても、もっと議論を深めたかったというのが正直な感想。最新刊で勉強させていただき、我がブログの参考とさせていただきます。



1999年、オーストラリアのシドニーに誕生した「チェルト」。地元食材を使った日本人シェフによるイタリア料理は地元でも評判に。そして2006年東京へ移転。日本では手に入りにくいワインテージのワインも幅広く揃え、多くのワイン通から親しまれている。写真:前菜の盛り合わせ¥1800~



取材協力
Certo
東京都新宿区須賀町1-26
TEL 03-5369-3455
17:00~24:00 日曜定休

